

第10回 ショートレター受賞作品一覧

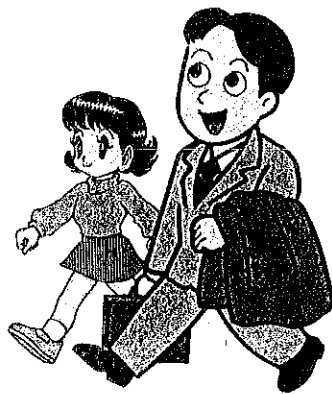
小・中学生の部

《最優秀賞》

タイトル 「パパへ」

私には、お母さんがいません。私が0歳の時にリこんしたのでよくおぼえていません。けどお母さんがいなくても私を育ててくれる人がいます。パパです。

私はパパの事が大好きです。パパ、いつまでも一緒だよ。



《優秀賞》

タイトル 「両親へ」



両親はマラソンの先導車みたいだ。私が自由に走るペースに合わせて微妙な距離を保ち大きな背中を見せている。だまって間違わないように進む方向だけは教えてくれる。追い越しそうで越せない背中にそっとありがとう。

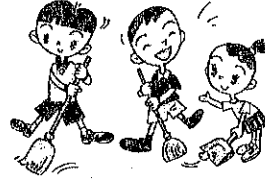
《優秀賞》

タイトル 「お母さんへ」

私が家に帰るといつもニコニコして「お帰り」と言われる時はとても嬉しいよ。お母さんに学校の悲しい事を話すといつも相談にのってくれて本当に相談できる人がいて良かった。私のお母さんでいてくれて本当にありがとう。

《優秀賞》

タイトル 「姉妹へ」



いつもケンカばかりしている姉妹。本当はみんな大好きなはずなのに、少しやさしい気持ちになればケンカにならないはずなのに。やさしい気持ち、言葉使い、思いやりをもってればいつもより仲よくなれるはず。

《佳作》

タイトル 「身近にいる魔法使いたちへ」

震災の後、テレビからありがとうは魔法の言葉だと繰り返し流れていた。普通に使っている私たちは魔法使いだっただのかな。この魔法で絆や感謝が広がるといいな。すごい力を秘めていることに気付かせてくれてありがとう。

《佳 作》

タイトル 「おじいちゃん」

病院の誰もいない病室でお誕生日の1ヶ月前の早朝、一人ぼっちで天国へ行ってしまったおじいちゃん。優しくしてくれたおじいちゃん。もう一度会いたい。そして、もう一度手をつないでしゃべりながら歩きたいな。

《佳 作》

タイトル 「お母さん」

ごめんね、ママ。いつも、怒鳴ってばかりで。自分に素直になれなくて。手紙でしか、謝ることしかできなくて…ごめんね。でも…ありがとうはちゃんと言うよ。だって、ママも私もうれしくなれる魔法の言葉だから。

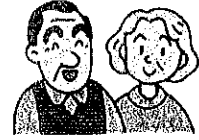
《佳 作》

タイトル 「お兄ちゃんへ」

いつも、べんきょうや遊びをおしえてくれて、ありがとう。お兄ちゃんとは、よく、けんかをするけれど、お兄ちゃんは、つよくてやさしい、じまんの、お兄ちゃんです。

《佳 作》

タイトル 「じっちゃん、おばあちゃんへ」



6年生になってから、家に行っていないね。少しはずかしくな
って、でも遊びにも行きたいし、勉強も教えてほしいねんで。
これから、ずっと世話かけると思うけど、よろしくね。じっ
ちゃん、おばあちゃん長生きしてや。

《入 選》

タイトル 「大おばあちゃん」

大ばあちゃん元気？私はとっても元気だよ。大ばあちゃんは
耳が聞こえにくいし、歩くのが大変だけどがんばってね。また、
いつか遊びに行くからね。暑いから熱中症にならないように気
をつけていつまでも長生してね。

《入 選》

タイトル 「ことうまれたおとうとへ」

わたしは、いもうとがほしかったけど、だいちがうまれて、
だいちがよかったとおもいました。かわいいからげんきにそだ
ってね。

《入 選》

タイトル 「祖父・祖母へ」

いつも、新鮮な野菜やお米を届けてくれてありがとうございます。感謝の気持ちでいっぱいです。

野菜やお米を育てている土地ありがとう。僕がこうして元気なのは野菜やお米を食べているからです。

《入 選》



タイトル 「お母さんへ」

どんなに忙しくても、しんどくても、料理やそうじも必ず。そして私達の事までやってくれる。

自分の事より私達の事を優先してくれる。一緒にお出かけしたりしてくれる。中々言えないけど、本当にありがとう。

《入 選》

タイトル 「わたしのお兄ちゃんへ」

わたしには、お兄ちゃんがいます。わがままで、らんぼうなときもあるけれどとっても、やさしいお兄ちゃんです。わたしは、そんなお兄ちゃんの事が大好きです。

《入 選》



タイトル 「15年後の自分へ」

15年後のわたしは25才ですね。今のわたしのゆめのトリマーになっていませんか？今のわたしのよっぴに、えがおをたやさずに元気でいてくださいね。わたしは15年後のわたしを、目ざしてがんばります。

《入 選》

タイトル 「お母さんへ」

お母さん、いつもお世話をしてくれてありがとう。よくケンカもするけど、「何であんな事言ったんやろ」って思っていたんです。これからもケンカをしようけど、仲の良い親子でいてね。大好き。

《入 選》



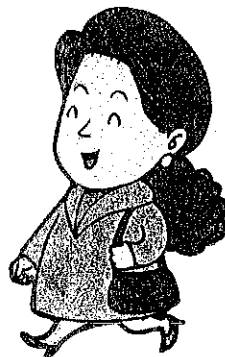
タイトル 「おばあちゃんへ」

私とおばあちゃんは毎日、口ゲンカするな。文句言いで口うるさいけど私もきつくなってる。おばあちゃんは気づかって色々、言ってくれるんかな。そんなおばあちゃんが私は大好きやで。これからも長生きしてね。

《入 選》

タイトル 「ばあばへ」

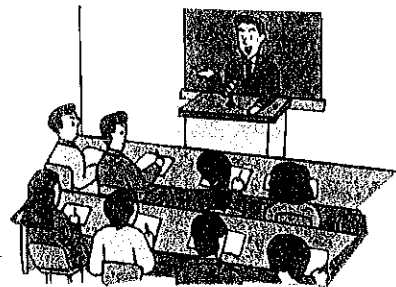
ばあばいつもありがとう。前、「あんたと一緒にディズニーランド行くために、いっぱい働いてお金ためるな」って言った時めっちゃうれしかった。でも時々息ぬきしてね。私が死ぬまで死なないでね。ばあば大好き！



高校・一般の部
《最優秀賞》

タイトル 「名前も知らないあなたへ」

研修開始から、後ろでコツコツと机を叩く音が続く。中盤、静まり返った中でそれは鋭さを増して響いた。私が堪忍袋の緒を切らして振り返ると「あっ！！」点字を打つ青年だった。私は今でも心からあなたに詫びている。



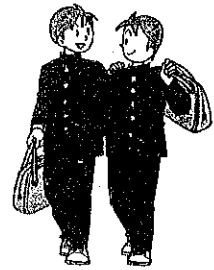
《優秀賞》

タイトル 「息子」

虐められている友を庇って、相手を泥田に投げ飛ばした。けれど、お前はその親の前に正座し、一言も弁解しなかった。そのとき殴られた後遺症で視力が低下した片目。成人した今も、心の目で見てるなと思うときがある。

《優秀賞》

タイトル 「友達へ」



口下手でクラスになじめなかった自分を、君はさっと手を引いて、クラスに溶けこませてくれた。だから自分も、誰かの手を引いてみようと思うんだ。一緒にいてくれて、そしてきっかけをくれてありがとう。

《優秀賞》

タイトル 「お姉ちゃんへ」

聴覚障害を持ちながら、健常者と共に働いているお姉ちゃん。心無い言葉にも気付かないふりをしている。その人達はお姉ちゃんが口の動きを読むことを知らない。それでも笑顔を見せるお姉ちゃんは誰よりも立派だよ！



《佳 作》

タイトル 「元請け社長へ」



あなたは11年前、私の前科を承知で仕事を回してくれた。炎天下の屋外労働は昨年、今年と体に応える様になりました。「君に任せて正解だった」の一言。来年も夏場を乗り切ってやる。社長、よろしく頼みます。

《佳 作》

タイトル 「小6の孫へ」

君はいつも妹の右側にいるね。どうして？と訊いたら「妹の右目がよく見えないから僕がその代わりをしてやるんだ」と言ったね。だから妹はいつも安心して君の左にいるね。これからも妹の右目になってあげてね。

《佳 作》

タイトル 「母へ」



ぼくが自らの命を絶とうとした時、あなたは「ただ生きていてくれるだけでいい」と言って抱きしめてくれましたね。この世に生きるみんなに、こんな言葉をかけてくれる人がいればいい、と願わずにはられません。

《佳 作》

タイトル 「みんなへ」

人権ってそんなに難しいことじゃないと思うよ。他の人を思いやり、大切にし、自分とは異なる意見を認める広い心さえ持てば、みんなもっと幸せになれると思うんだ。みんなはどう思う？

《佳 作》

タイトル 「母と兄へ」

家族全員で認知症の母を捜した。砂浜でやっと兄が見つけた。おんぶした。「まあ亀さん、竜宮城に連れて行ってくれるのかい？」母が微笑んだ。兄は涙ぐんで静かにうなずいた。夕陽の中の乙姫様と亀の後姿がまばゆい。

《入 選》

タイトル 「キミへ」

怒ってくれて、泣いてくれて、喜んでくれてありがとう。理解してくれてありがとう。やっと気づけたよ。今を大切に少しずつ積み重ねて、未来で笑えるように。今度は私がキミを助けるよ。

《入 選》

タイトル 「大切な娘へ」



ごめんね。今日も怒っちゃった。怒鳴っちゃった。叩いちゃった。親だからって暴力が許される訳ないのにね。本当にごめんね。「人を叩いちゃ駄目なのよ！」って言うあなたの言葉が正しくて、間違ってるのは私だね。

《入 選》

タイトル 「一般家庭と呼ばれる人たちへ」

小学校三年生の時、話の流れで近所の同級生の家に遊びに行った。その家のおばさんが私だけシッシッと手を振りながら追い払われた。母子寮に住んでるけれど私は野良犬ではなく、人間です。

《入 選》

タイトル 「社会へ」



人権は何より大切。考え方の違いで世界では争いが絶えない。人に愛されるのも重要だけど、まずは人を愛し、差別、偏見も認め合える豊かで平和な社会になってもらいたい。

《入 選》

タイトル 「父へ」

「お母さんは？」お父さんはいるのに、ついつい言ってしまう。「お母さんお母さん」ばかり言ってるけど、お父さんがいないときもさみしいんだよ。

《入 選》

タイトル 「家族へ」

自分が今ここにいるのは、家族みんなから見守られているからだと思う。怒られることだってあるけど、それは自分のために怒ったって考えると、感謝してもしきれない。今までありがとう。そしてこれからも。

《人 選》



タイトル 「みんなへ」

みんなが助け合い、人を思いやる気持ちを持てば、きっと「平和」は訪れます。こういう時代だからこそ、一人一人手を取り合って、明るい未来を目指しましょう。

《人 選》

タイトル 「サッカー少年達へ」

お前ら、すごいわ。コーチが必死で覚えてきた手話は、うまく伝わらないのに、お前らの身振り手振りは、ちゃんと伝わって、笑い合えるんやもん。友達になるのに耳が不自由とか関係ないねんな、サッカーが好きなら。

《人 選》



タイトル 「父へ」

突然倒れ、生死を彷徨ったお父さん。幸い命は取りとめたけど不自由な身体になってしまったね。今年もスイカの季節がやってきたよ。大好きなスイカが食べられなくなって何年経ったかな……。でも生きているだけでいい！

《入 選》

タイトル 「父母へ」

これでもかと前進していく父がいる
これでもかと人を思いやる母がいる
生きる力を教えてくれた
親の背中に 感謝・・・感謝

《入 選》

タイトル 「性同一性障害」

性同一性障害。今までピンとこなかったけれど、あなたと出逢ったことによって、少し解った気がします。そのままのあなたで、これからも輝き続けてほしいと願っています。

《入 選》

タイトル 「甥へ」



成績がビリになってもしょげることはないよ。一番うしろにいれば全体が見渡せるぞ。そうすれば成績だけで人間の価値が決まるわけではないということが、分かると思うよ。

《入 選》

タイトル 「友だち」

もう押さんでいいよ、車いす。疲れたんやろ？フラフラやんか。先生が代わりに押すけん。自分やって足に歩行器具つけどるのにしんどいやろ。押したいのは分かっとるよ、友だちやもんな。あんまり先生泣かすなよ。

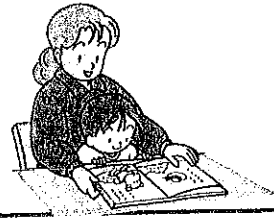
《入 選》

タイトル 「東日本大震災被災地の方へ」

「いづまでも被災者じゃねえ、これからは復興者だ！」と力強く海に出て行った漁師さん。ありがとうございます。日焼けした笑顔に、大阪にいる私が安堵と元気をもらいました。応援しまっせ〜！

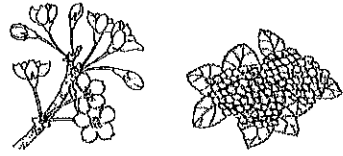
《入 選》

タイトル 「生さぬ仲の娘へ」



母が再婚していなかったならお前はあの出来損ないの男のDVにあそこまで耐えなかったはず。入院中のお前を見てつくづくそう思った。遠慮するお前を強制的に移住させて3年。笑顔がピカイチだ。しっかり生きてくれ。

《入 選》



タイトル 「母へ」

お母さん、見えますか？サクラですよ。アジサイですよ。ヒマワリですよ。草花が好きだったお母さん、遠慮せずにもっと行きたいところを言ってください。僕が車椅子を押して、どこでも連れて行ってあげます。

《入 選》

タイトル 「ダイビングが大好きな妻へ」

どうしても海に潜りたい。君はそう言った。親切なショップを見つけて、二人でスクールに通ったね。そしていよいよ海洋実習。君は車椅子を脱いで海に入った。それ以来、海でも陸でも、君の笑顔にかなわない。

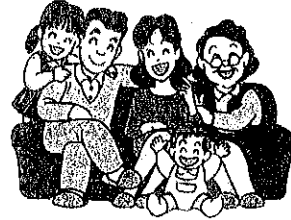
《入 選》

タイトル 「中途失明した父へ」

「目の見えない人だけが住む世界にいきたい」とぽつりと言ったお父さん。私は自分の非力さを悔しく思ったよ。障害を負った人が、違うことを不便と感じない、違うことを不幸と感じない世界になってほしいよね。

《入 選》

タイトル 「こどもたちへ」



心はね、ひとりじゃ生まれないんだよ。家族がいて、友達
がいて、人と出会うことで、心が生まれるんだ。だから、心が寂
しいときは、大事なことを忘れていたときなんだよ。君はひと
りじゃない、ってことをね。

《入 選》

タイトル 「一人ひとりの“普通”に」

手が不自由な僕は、人の手を借りて食べるのが普通の生活。
目の前の人の名前を忘れやすいあなたは、毎日、「お名前は？」
と尋ねるのが普通の生活。一人ひとりに“普通”があって、それ
を認め合って優しい社会だね。